

( 陳受23第20号 )

すべての原発の廃止について国への意見書提出に関する陳情

受理年月日

平成23年 8 月29日

陳 情 者

西村 まり

### 陳 情 の 要 旨

このたびの大震災による福島原発の事故以来、毎日のテレビ、新聞のニュースから目を離せなくなりました。東日本大震災による社会的大変化に対応して、1．一人一人の生活の変革、2．自治体ができること、3．国としてなすべきことの3段階があると思います。

私たち日本人はまず、節電を初め、自分ができることをする中で、生活スタイルを変えていかなければなりません。

地方自治体としての武蔵野市ができること、しなければならないことは、これから衆知を集めて検討し、実行していくことと思います。これについては今後、私たち市民も一緒に考えさせてください。

ここでは国がなすべきことに関して述べさせていただきます。

8月28日のNHKの特集番組を見、小出裕章氏の著書「原発のウソ」(扶桑社新書)、「原発はいらない」(幻冬舎ルネッサンス新書)を読むにつけ、日本には脱原発の道しか残されていないと考えざるを得ませんでした。

ヒロシマ、ナガサキを繰り返さないと言ったように、フクシマを繰り返してはならないのです。

原発を1基、1基とめていっても、日本は続きます。もし、もう一度原発の事故を起こしたら日本は滅びます。原発を廃止する方向しか選択肢はありません。

よって、武蔵野市議会に対し、すべての原発を廃止するように、国(内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、関係各省庁)に意見書を提出するよう陳情します。